

144 名古屋大学創立75周年 — 誕生の歴史的背景 —

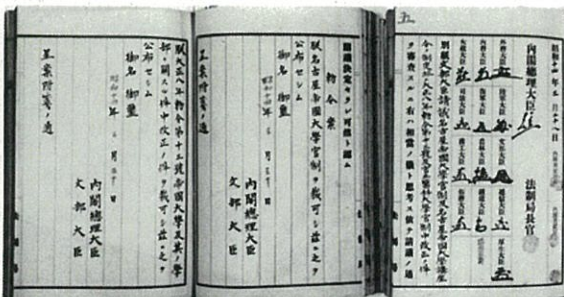
1939(昭和14)年4月1日に名古屋帝国大学として創立された名古屋大学は、今年1日でちょうど75周年をむかえました。

名帝大の創立の背景にあったのは、産業都市名古屋を中心とする地域の人々の念願でした。当時の大学は数がきわめて少ないうえ、東京や京都・大阪の近辺に集中していました。これが国立の総合大学となると、ほぼ帝国大学に限られていました。帝国大学は、とくに帝国大学令によって定める、他の大学とは一線を画した存在でした。それが置かれた都市は、当時植民地であった京城(現在のソウル)、台北を入れても8つしかなかったのです。

1889(明治22)年に誕生した名古屋市は、周辺町村を合併して市域を拡張し、第1次世界大戦による好景気をへて形成された、いわゆる中京工業地帯の中心都市となりました。そして1921(大正10)年の大合併により、人口では全国第3位の大都市となりました。

こうなると、日本、アジアに冠たる大都市、産業都市となった名古屋に総合大学を、という声が高まります。名古屋市に総合大学を設置する運動は1910年代から始まり、1920年代には政財界が「名古屋総合大学設立期成同盟会」を結成、建議案を衆議院で可決させるなどの活動をおこなっていましたが、大阪に先を越されてしまいました。1930年代に入ると、名古屋市の人口が百万人を突破、重工業の発展が進んで行くなかで、いよいよ帝国大学設置の機運が盛り上がっていったのです。

しかし、1937年に日中戦争が勃発したこともあって、政府は総合大学の新設に積極的ではありませんでした。それでも人々はあきらめず、愛知県が創設費の全額(県年度予算の20%にあたる額)を負担することで、何とか設置にこぎつけたのでした。現在の名大が日本の基幹的総合大学であるとともに、地域にも深い関わりのある大学であるゆえんは、ここに求められるといえるでしょう。



- 1 名古屋帝国大学官制勅令案(国立公文書館所蔵「公文類聚」)。「朕名古屋帝国大学官制ヲ裁可シ茲(ここ)ニ之ヲ公布セシム」とある。
- 2 名古屋帝国大学の誕生を報じる大阪朝日新聞(1939年4月1日発行の夕刊、朝日新聞名古屋本社提供)。戦時体制下の制約により、医学部と理工学部のみからの出発となった(1942年には理学部と工学部が分離)。

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|--|--|
| <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </table> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | <p>3 総長室の溢澤初代総長。「和を以て貴しと為す」を大学全体の座右の銘とした。</p> <p>4 名帝大創立当初の東山校舎(工学部)。東山の土地も、地元の土地整理組合から無償提供された。</p> <p>5 『名古屋大学五十年史』(通史一・二)。50周年から100周年への折り返しにあたり、大学文書資料室は運営支援組織として改組し、100年史編さんに向けての準備作業に着手することになった。</p> |
| 1 | 2 | 3 | | | | | |
| 4 | 5 | | | | | | |

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課(基金推進室)あて(電話 052-789-4993, 2011、Eメール kikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお問い合わせください。